

米国金融政策（2025年3月FOMC）

政策金利の据え置きを決定

2025年3月21日

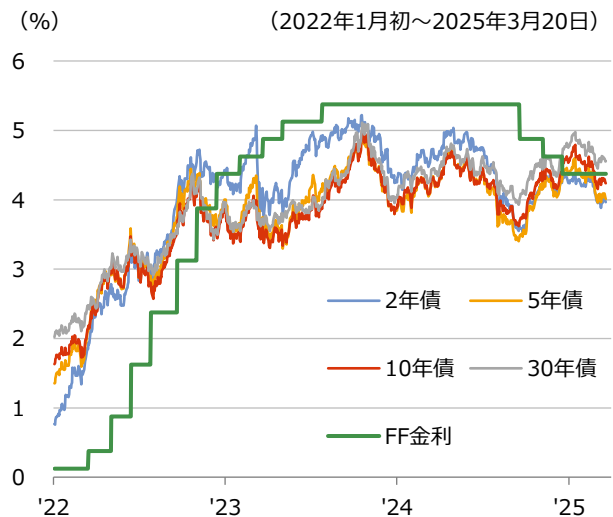
不透明感の強い状況で追加利下げを急がず

FRB（米国連邦準備制度理事会）は3月18日～19日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを4.25～4.50%で据え置くことを決定しました。他方、市場の混乱を避けるための「技術的な」変更として、FRBは保有する国債の縮小ペースを月額250億米ドルから4月以降月額50億米ドルへ減額することを決定しました（住宅ローン担保証券は月額350億米ドルの縮小ペースを維持）。

声明文では雇用と物価目標に対するリスクが「ほぼ均衡している」としていた従来の文言が削除され、「経済見通しを巡る不確実性が高まっている」と新たに記述されました。パウエルFRB議長は「政策調整を急ぐ必要はない」と従来のスタンスを踏襲し、注目されたFOMC参加者のFF金利見通しも予測期間全体で大きな変化はありません。ただし、「（事態が）より明確になるのを待つ」とする中、FOMC内でインフレ上振れリスクへの警戒感の強まりとともに追加利下げに慎重化しつつある姿勢も垣間見られます。

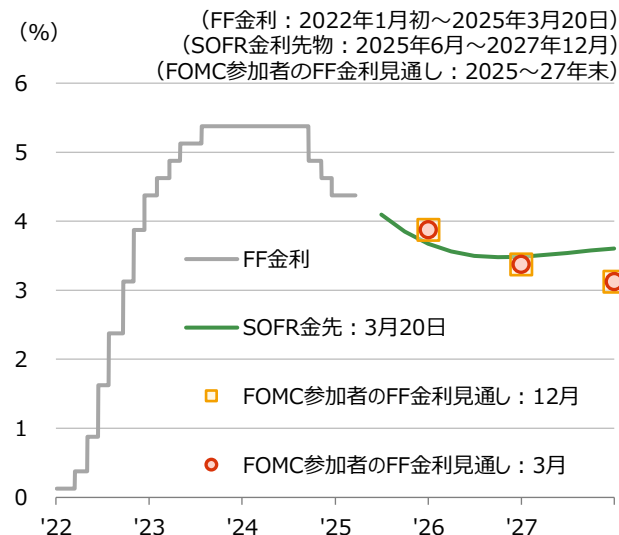
2月下旬から市場心理が悪化する中でFRBのハト派化を求める声が一時高まりました。今回FRBの景気配慮の姿勢が特に強まることはありませんでしたが、FOMC直後の金融市場の反応は総じて限定的でした。FF金利先物によれば、次回の利下げは6月の可能性が高く、年内2回超の利下げが織り込まれています。目先の焦点は4月初に発表・発動予定となっている相互関税の行方と、経済に及ぼす影響です。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーク

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利の略 (出所) FRB、ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management